

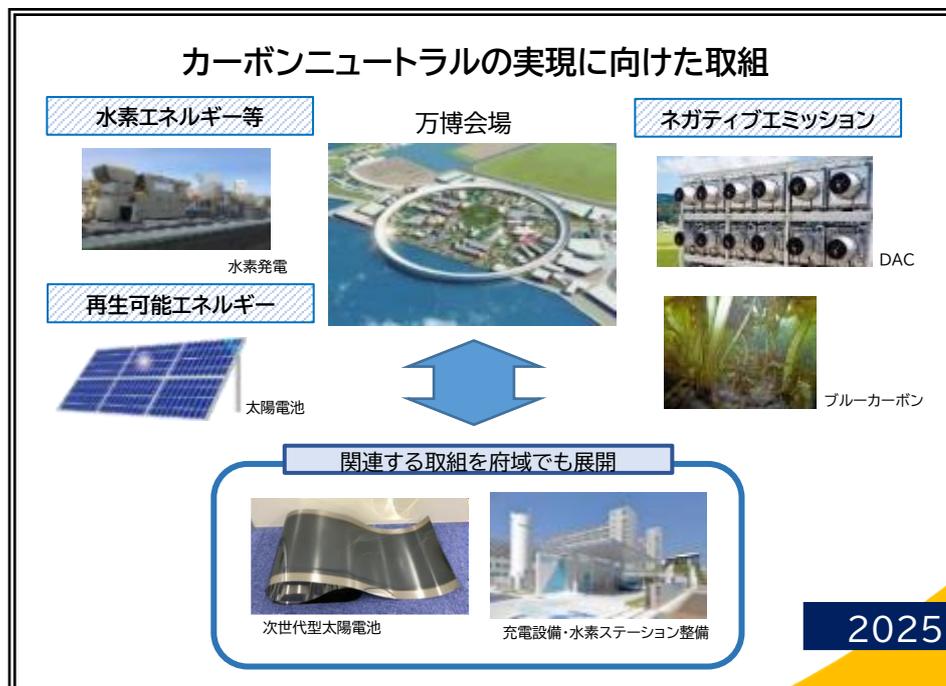
# 3 環境

【項目】

- ① カーボンニュートラル(最先端技術の開発・実用化)
- ② カーボンニュートラル(事業者や府民の行動変容)
- ③ 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン
- ④ 大阪湾MOBAリンク構想

## 万博を契機とした脱炭素社会の実現

大阪・関西から革新的な技術を創出。2030年に府域のCO<sub>2</sub>排出量を2013年比40%以上削減し、2050年までにカーボンニュートラルの実現をめざす。



**現状**  
府域のCO<sub>2</sub>排出量**24.3%**削減(2013比)  
※2021年度

**2025(万博開催)**

**2030(万博後)**  
CO<sub>2</sub>排出量**40%以上**削減(2013比)

大阪府におけるCO<sub>2</sub>排出量の  
部門ごとの削減率(将来推計)

部 門	2030削減率 (2013比)
工場等	43%
オフィス	42%
家 庭	46%
運 輸	33%
その他(※)	23%
合 計	40%

(※)廃棄物、メタンなど

**2050**  
実質CO<sub>2</sub>排出量**100%**削減(2013比)

# ① カーボンニュートラル(最先端技術の開発・実用化)

2050年までに温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の実質ゼロを達成するためには、革新的技術の開発や実用化が不可欠である。「未来社会の実験場」をコンセプトとする万博会場においては、蓄電池や水素、CO<sub>2</sub>回収、次世代型太陽電池などの最先端技術などカーボンニュートラル(CN)に資する技術を実証・活用。今後の研究開発や実用化につなげていく。

## 2030(万博後のめざす姿)

### □万博で活用した最先端技術の研究開発・実用化

- ・次世代蓄電池の実用化と電池関連産業の集積を活かしたイノベーション促進・水素発電による電力供給等が開始
- ・水素・アンモニア・e-メタン等のサプライチェーン構築
- ・大気中や排ガスからCO<sub>2</sub>を回収し、地中への貯留や有効活用を行う技術の実用化に向けた研究開発
- ・次世代型太陽電池が府内事業所や家庭に普及拡大



全固体電池▶



◀水素CGS実証プラント(神戸ポートアイランド)

## 2025(万博開催後)の成果・到達点

### □万博を契機とした最先端技術の実証・活用

- ▶次世代型太陽電池である「ペロブスカイト太陽電池」の実証による技術的可能性・経済性の検証と認知度の向上
- ▶万博会場で水素のサプライチェーンモデル構築を実装することで、将来的な社会実装に向けた知見とノウハウを蓄積
- ▶大阪の臨海工業地帯を拠点とした水素・アンモニアのサプライチェーン構築に向けた検討を推進
- ▶大気中のCO<sub>2</sub>を直接回収し、再エネ由来のグリーン水素と組み合わせることでe-メタンに変換・利用するメタネーション実証を実施
- ▶国内初のSAF(Sustainable Aviation Fuel: 持続可能な航空燃料)量産拠点を製造したSAFを、日本で初めてブルーインパルスへ供給
- ▶コンクリートや金属にCO<sub>2</sub>を固定させ、コンクリートや製品の製造時のCO<sub>2</sub>排出量を減らすCO<sub>2</sub>固定技術が披露
- ▶放射冷却素材をパピリオン外装膜に使用し、パピリオンの空調負荷軽減や低炭素化に貢献
- ▶「カーボンニュートラル技術開発・実証事業」で支援した技術について7件が製品化され、実用段階への移行を実現

## 今後の課題と取組の方向性

### □万博で披露された最先端技術の社会実装を推進

- ・経済界をはじめオール関西で具体的な実装化に向けた一貫通貫での伴走支援を重点的に実施
- ・最新カーボンニュートラル技術の府内企業によるビジネス化を支援するとともに、CN先進技術を活用した製品の量産体制構築・需要創出・府内中小企業のサプライチェーン参入を支援
- ・ペロブスカイト太陽電池の民間・公共施設への導入促進
- ・水素・アンモニア・e-メタン等の関連技術やCO<sub>2</sub>回収技術の先導的な導入の促進
- ・水素等の用途開発や供給体制構築への支援により水素等を身近なエネルギー源として府域全域の利用拡大をめざす
- ・ものづくりにおける水素・アンモニアの利活用により、環境価値の高い商品や製品の創出をめざす

### ◆国への要望事項

万博で発信した最先端技術の実用化や、世界を先導する新たな技術開発の促進

- ・ペロブスカイト太陽電池への社会実装に向けた需要創出や技術開発に対する支援
- ・ペロブスカイト太陽電池の導入拡大・産業競争力強化のための支援
- ・水素・アンモニアやe-メタン、SAF(持続可能な航空燃料)などの製造・貯蔵拠点整備やサプライチェーン構築などに対する財政支援や規制の合理化・適正化
- ・燃料電池(FC)商用車等の導入拡大等を通じた水素需要の創出に対する支援
- ・蓄電池関連産業の設備投資に対する継続的な支援や、人材確保に向けた取組の加速化、リサイクルを意識した製品開発や先進的な廃棄・リサイクル技術開発の支援

# ① カーボンニュートラル(最先端技術の開発・実用化)

## 口万博を契機とした最先端技術の実証・活用①

### 成果(到達点)

- ・次世代型太陽電池である「ペロブスカイト太陽電池」の実証による技術的可能性と経済性の検証、認知度の向上
- ・万博会場で水素のサプライチェーンモデル構築を実装することで、将来的な社会実装に向けた知見とノウハウを蓄積
- ・大阪の臨海工業地帯を拠点とした水素・アンモニアのサプライチェーン構築に向けた検討を推進
- ・大気中のCO<sub>2</sub>を直接回収し、再エネ由来のグリーン水素と組み合わせてe-メタンに変換・利用する実証を実施

### 取組内容

#### ▶脱炭素技術の実証と社会実装が本格始動

##### ・次世代型太陽電池である「ペロブスカイト太陽電池」の実証

バスシェルターの屋根やヘルスケアパビリオンへの設置など、万博会場で「ペロブスカイト太陽電池」の実証を実施  
今後の導入拡大に向けて、官民協議会において議論が進められている

##### ・水素のサプライチェーンモデルの実装

民間パビリオン内で太陽光発電を活用してつくられた水素を、地下のパイプラインを通じて別のパビリオンに運び、水素燃料電池で発電して夜のライトアップ演出に使用する水素サプライチェーンモデルを実装

##### ・水素混焼発電実証

ガスタービン発電設備で水素を混焼させて発電し、その電気を万博会場で使用する水素混焼発電実証を実施。水素発電の社会実装に向け、信頼性・安全性等を検証

##### ・アンモニア発電実証

燃焼してもCO<sub>2</sub>が発生しないアンモニアを燃料としたガスタービンの開発を推進し、CO<sub>2</sub>フリー発電技術となり得るアンモニア発電の実証を実施  
クリーンなアンモニアを燃料とすることで、万博のカーボンニュートラル化にも貢献

##### ・「e-メタン」を製造・利用するメタネーションの実証

万博会場で再エネ由来のグリーン水素と生ごみ由来のバイオガスのほか大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を直接回収するDAC技術等により集めたCO<sub>2</sub>を組み合わせて「e-メタン」をつくるメタネーション実証を実施。つくられた「e-メタン」は迎賓館の厨房等で使用



バスシェルターへの  
ペロブスカイト太陽電池の設置  
提供:積水化学工業株式会社



水素混焼発電設備  
提供:関西電力株式会社



環境省委託事業  
「既存のインフラを活用した水素供給  
低コスト化に向けたモデル構築・実証事業」  
(メタネーション実証設備)  
提供:大阪ガス株式会社



DAC実証設備  
提供:公益財団法人地球環境  
産業技術研究機構

# ① カーボンニュートラル(最先端技術の開発・実用化)

## □万博を契機とした最先端技術の実証・活用②

### 成果(到達点)

- ・国内初のSAF(Sustainable Aviation Fuel:持続可能な航空燃料)量産拠点を製造したSAFを、日本で初めてブルーインパルスへ供給
- ・コンクリートや金属にCO<sub>2</sub>を固定させ、コンクリートや製品の製造時のCO<sub>2</sub>排出量を減らすCO<sub>2</sub>固定技術が披露
- ・放射冷却素材をパビリオン外装膜に使用し、パビリオンの空調負荷軽減や低炭素化に貢献
- ・「カーボンニュートラル技術開発・実証事業」で支援した技術について7件が製品化され、実用段階への移行を実現

### 取組内容

#### ▶脱炭素技術の実証と社会実装が本格始動

##### ・堺市に国内初のSAF量産拠点が整備

国内初となる国産SAF大規模製造設備が堺市に整備され、量産化に向けた取組が進展  
万博を契機に、この拠点設備で製造したSAF(廃食用油由来)をブルーインパルスへ供給(日本初)

##### ・CO<sub>2</sub>固定技術の披露

コンクリートや金属にCO<sub>2</sub>を固定させることで、コンクリートや製品の製造時のCO<sub>2</sub>排出量を減らすCO<sub>2</sub>固定技術を用いた舗装ブロックやベンチが万博会場で披露、一部は製品化まで進展

##### ・放射冷却素材をパビリオン外装膜での使用

放射冷却効果で周囲より温度を低下させる素材をパビリオンの外装膜として使用。この素材はゼロエネルギーでの冷却が可能で、パビリオンの空調負荷の軽減や低炭素化に貢献

##### ・カーボンニュートラル技術の開発・実証事業の補助

カーボンニュートラル技術開発・実証事業(令和4~6年度)カーボンニュートラルに資する最先端技術の社会実装に向け、企業による技術の開発・実証を計18件補助

##### ・カーボンニュートラル広報・発信

カーボンニュートラル技術開発・実証事業の成果を中心に、万博会場内外で披露  
万博会場での期間展示フューチャーライフエクスペリエンス(FLE)では14,213名が来場



ブルーインパルス  
提供:航空自衛隊



ガスパビリオン外装膜への  
放射冷却素材の使用  
提供:日本ガス協会

FLEカーボンニュートラル未来体験

## ② カーボンニュートラル(事業者や府民の行動変容)

技術革新だけでは、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の実質ゼロを達成することは困難であり、事業者や府民の行動変容が鍵となる。万博会場での「見える化」の取組などを契機に、引き続き脱炭素経営、脱炭素行動の定着・浸透をめざす。

### 2030(万博後のめざす姿)

- 大阪の脱炭素経営を世界のモデルに
  - ・事業者によるカーボンニュートラルの取組強化
  - ・事業者によるCO<sub>2</sub>排出削減対策の積極的な実施及びクレジット活用の活性化
  - ・サプライチェーンに連なる広範な裾野の中小事業者へも脱炭素経営が浸透
  - ・事業者への資金供給手法としてESG投融資が普及

### 2025(万博開催後)の成果・到達点

- 脱炭素経営・ESG投融資の普及
  - ▶脱炭素経営宣言制度の周知による事業者の脱炭素への意識向上・取組促進(脱炭素経営宣言事業者:約10,500事業者(令和7年10月13日時点))
  - ▶事業者のクレジット制度への理解促進
  - ▶製品のCFP算定のモデル事業の実施(6者、25製品)
  - ▶ESG投融資の活用促進に向けた産官金の対話の場を新たに設置して意見交換を実施

### 今後の課題と取組の方向性

- 「大阪の脱炭素経営」を世界のモデルに
  - ・府内中小事業者のSBT認定取得の促進
  - ・公共調達等における脱炭素評価を通じた事業者の脱炭素化の促進
  - ・ESG融資の活用促進に向けた、府条例の枠組みと連動した融資制度の構築・運用
  - ・脱炭素経営の取組に向けた意識醸成
  - ・宣言制度からCO<sub>2</sub>排出量削減までの府の脱炭素経営支援パッケージの強化
  - ・支援機関等(金融機関、商工会議所等)と連携した脱炭素経営の促進
  - ・クレジット制度への理解、活用の促進に向けた周知・啓発
  - ・サプライチェーン全体での排出削減の取組推進
- ◆国への要望事項
  - ・事業者の設備投資への補助など脱炭素経営への転換を促進するための支援
  - ・J-クレジット制度の活性化に向けた、審査機関数の増加等の体制強化

## ② カーボンニュートラル(事業者や府民の行動変容)

### □脱炭素経営・ESG投資の普及

#### 成果(到達点)

- ・脱炭素経営宣言制度の周知による事業者の脱炭素への意識向上・取組促進  
(脱炭素経営宣言事業者:約10,500事業者(令和7年10月13日時点))
- ・事業者のクレジット制度への理解促進
- ・製品のCFP算定のモデル事業の実施(6者、25製品)
- ・ESG投資の活用促進に向けた産官金の対話の場を新たに設置して意見交換を実施

#### 取組内容

##### ▶クレジットを活用した事業者による脱炭素経営促進

- ・48事業者が参加し、再エネ導入や省エネにより生じる環境価値をクレジット化し、万博協会に寄付予定  
→ クレジット創出量:411t-CO<sub>2</sub>(令和6年度末時点)
- ・事業を通じて府域事業者の「J-クレジット制度」への理解を深め、制度活用による脱炭素化の意欲的な取組を促進

##### ▶事業者の脱炭素経営の促進

- ・事業者の脱炭素化の取組を促進するため、脱炭素経営宣言登録制度を令和5年度に創設し、地域の関係機関と連携して脱炭素経営を支援  
→ 宣言事業者数:約10,500事業者(令和7年10月13日時点)
- ・宣言事業者には、登録証の発行や府HPによるPR支援をはじめ、ESG融資等に関する情報発信や設備補助など様々な支援を実施
- ・製品のCFP算定、削減に取り組む企業への支援として、算定シートやモデル事例集の作成・公表やセミナー等を実施(セミナー2回、ワークショップ8回)



クレジットを活用した事業者による脱炭素経営促進事業スキーム図



脱炭素経営宣言チラシ



CFPセミナー

## ② カーボンニュートラル(事業者や府民の行動変容)

技術革新だけでは、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の実質ゼロを達成することは困難であり、事業者や府民の行動変容が鍵となる。万博会場の「見える化」の取組などを契機に、引き続き脱炭素経営、脱炭素行動の定着・浸透をめざす。

### 2030(万博後のめざす姿)

#### □脱炭素行動の定着

- ・日常生活における幅広い製品やサービス等において、CO<sub>2</sub>排出量が見える化
- ・CO<sub>2</sub>削減効果の製品表示や価格等への反映が広く普及し、府民による脱炭素に配慮した消費選択行動が浸透

### 2025(万博開催後)の成果・到達点

#### □CO<sub>2</sub>削減効果の見える化やCFP(カーボンフットプリント)を表示した商品・サービスの普及啓発による府民の行動変容促進

- ▶アプリに表示されるCO<sub>2</sub>削減効果を府ダッシュボードで見える化することにより府民の行動変容を促進
- ▶府内各地でCFPを表示した商品・サービスや普及啓発を展開することで、事業者や府民の環境配慮行動を促進
- ▶シェアサイクルや衣料品のリユース・リサイクルを行う民間事業者等と連携して新たなCFP表示を開始し、循環型経済への移行を促進(令和7年10月13日現在、参画事業者19事業者、CFP表示200か所以上、CFP表示商品数170製品)
- ▶小中学校等での脱炭素化ツアーの促進(全国210校)により、次世代の脱炭素意識を醸成

### 今後の課題と取組の方向性

#### □府民の行動変容の促進

- ・民間事業者と連携した行動変容促進の継続・拡大
- ・事業者等と連携し、おおさかCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>ポイントを普及・拡大
- ・おおさかカーボンフットプリントプロジェクトの参画事業者の拡大
- ・府内小売店や大学等と連携したプロジェクトのキャンペーン・イベントを実施し、CFP表示店舗や商品・サービスを拡大
- ・プロジェクトのキャンペーン・ロゴ「どこや さがそや 脱炭素」を活用したSNS等による情報発信の強化
- ・府内市町村・企業等と連携し、脱炭素行動機会創出に向けた府民を巻き込んだイベントを実施

#### □観光分野にかかるCO<sub>2</sub>排出量の見える化

- ・今後も観光事業者と連携し、脱炭素化ツアーの定着とその啓発を実施
- ・観光分野に限らず、あらゆる分野へ取組の裾野を広げ、地域全体で脱炭素化を普及・促進

#### ◆国への要望事項

- ・消費者が脱炭素に貢献する商品・サービスを選択できるよう、CO<sub>2</sub>見える化(CFP)の表示・算定拡大に向けた業界全体への働きかけや補助制度等の創出
- ・多様な種類のCFP 算定・表示事例の発信や、アプリ・ポイント制度などとの連動により消費者の行動変容の後押し
- ・統一的なキャンペーンなどを実施するとともに、長期的には消費者への環境価値(CO<sub>2</sub>削減量等)の理解促進

## ② カーボンニュートラル(事業者や府民の行動変容)

□ CO<sub>2</sub>削減効果の見える化やCFP(カーボンフットプリント)を表示した商品・サービスの普及啓発による府民の行動変容促進

### 成果(到達点)

- ・アプリに表示されるCO<sub>2</sub>削減効果を府ダッシュボードで見える化することにより府民の行動変容を促進
- ・シェアサイクルや衣料品のリユース・リサイクルを行う民間事業者等と連携して新たなCFP表示を開始するなど、府内各地でCFPを表示した商品・サービスや普及啓発を展開することで、事業者や府民の環境配慮行動を促進(令和7年10月13日現在、参画事業者19事業者、CFP表示200か所以上、CFP表示商品数170製品)
- ・小中学校等での脱炭素化ツアー促進により、次世代の脱炭素意識を醸成

### 取組内容

【万博会場内】

▶イベントPR等により事業者や府民の行動変容を促進

大阪ウィーク～夏～「いまこそ考える私たちの環境の未来」(7月26日)

おおさか環境宣言や府民1人ひとりの脱炭素取組の成果を発信し、来場者の環境意識向上と行動変容促進(約3,000名参加)

<第1部> みんなではじめる、おおさか環境宣言

こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール」の受賞者、おおさか環境賞受賞者による環境活動の取組紹介とゲスト・観客との交流等を通じて、環境の未来を考え、「おおさか環境宣言」を決定

<第2部> 脱炭素エキデン記念式典

環境大臣やGX推進企業6社をはじめとする登壇者が、脱炭素社会の実現に向けて“個人の行動”をいかに促進し、社会の価値へと転換するかをテーマに議論を展開

※アプリ利用者によるCO<sub>2</sub>削減効果を府ダッシュボードで見える化  
(CO<sub>2</sub>削減効果:約902t(令和7年10月13日時点))

▶CFP(カーボンフットプリント)による削減効果の表示

- ・府は、大阪オリジナルぶどう「虹の雫」への大阪版CFPの表示や、CFPを含めたエコラベルの理解促進に向けた企業や自治体等が連携した取組を「OSAKA JAPAN SDGs Forum」(約1,500名来場)を通じて情報発信・協創の呼びかけ
- ・おおさかCFPプロジェクト参画事業者においては、カステラのパッケージ軽量化や、大阪の中小企業等による脱炭素技術の削減効果をCFP表示による情報発信



おおさか環境宣言ロゴ



知事発表の様子



おおさか環境宣言登壇者



脱炭素エキデン記念式典



大阪版CFPの表示



OSAKA JAPAN SDGs Forumでの情報発信

## ② カーボンニュートラル(事業者や府民の行動変容)

□ CO<sub>2</sub>削減効果の見える化やCFP(カーボンフットプリント)を表示した商品・サービスの普及啓発による府民の行動変容促進

### 取組内容

【万博会場外】

#### ▶おおさかCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>(コツコツ)ポイントの普及

- ・スーパー等においてCO<sub>2</sub>排出量が少ない商品・サービスを購入等した消費者に対しておおさかCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>(コツコツ)ポイントを付与  
参加事業者:のべ43事業者  
(令和4年:6者、令和5年:11者、令和6年:16者、令和7年:10者)
- ・おおさかCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>(コツコツ)ポイントが大阪全域に普及するようにSNSを活用した広報プロモーションを実施

#### ▶CFP(カーボンフットプリント)の普及

- ・おおさかCFPプロジェクト参画事業者(19事業者(令和7年10月1日時点)、CFP表示商品数170製品)と連携して、イベントや店舗で、大阪産農産物の大阪版CFPの表示事例を拡大(農産物23品目・加工品2品目)
- ・日本総研・三井住友銀行と連携した「みんなで減CO<sub>2</sub>プロジェクト」の取組を実施
- ・10月1日から、新たなキャンペーン「どこや さがそや 脱炭素」を開始

#### ▶観光分野にかかるCO<sub>2</sub>排出量の見える化

- ・修学旅行等を対象に移動や宿泊、食事、観光によるCO<sub>2</sub>排出量が見える化し、排出量や環境負荷の少ない手段を選択する「脱炭素化ツアー」を大阪市が提案
- 全国210校の小中学校等(約27,000名)が同ツアーを利用し、万博へ来場



ポイント付与実施店舗の対象商品



おおさかコツコツポイントのSNSでの発信



おおさかCFPプロジェクトロゴ



脱炭素化ツアー感謝状贈呈式

### ③ 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン

G20大阪サミットで共有された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」では、2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることが掲げられている（G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合にて上記目標の10年前倒しに合意）。海に囲まれた万博会場において、その達成に向けた先進的な取組を実践・発信。先進的取組の成果等を活用し、世界の海洋プラスチックごみの削減につなげていく。

#### 2030(万博後のめざす姿)

□大阪湾に流入するプラごみ半減  
・万博会場での先進的取組を府域に拡大  
・サーキュラーエコノミー(循環経済)への移行に向けた取組加速

□既存のプラスチック製品製造からの業種転換の拡大  
・大阪プロダクツの製造が増加し、ブランド力による国内外への展開や、ビジネスへの参入拡大を通じて大阪経済の成長をけん引



▲サーキュラーエコノミーのイメージ

(出典)オランダ政府「From a linear to a circular economy」一部加工

#### 2025(万博開催後)の成果・到達点

- プラスチックごみ削減に向けた意識醸成・取組拡大
- ▶おおさかマイボトルパートナーズメンバーにより、マイボトルスポット5,536か所(令和8年1月末時点)及び万博会場内への59台の給水機の設置により、マイボトルの利用を促進
  - ▶オール大阪でごみ削減や機運醸成の実施(ごみゼロアクション:約21万人参加(令和7年11月末時点))
  - ▶大学や民間企業との連携によるプラスチックごみ流入実態等や取組状況の定量的な把握により、効果的な発生抑制対策等を推進
  - ▶マッチングセミナー等の開催や製品開発支援事業補助を通して、バイオプラスチック製品の開発・ビジネス化を支援し、万博で成果を披露

#### 今後の課題と取組の方向性

- 万博会場での先進的取組の成果等を活用し、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を実現
- ・府民や事業者等の清掃活動の促進
  - ・ごみゼロに向けた啓発・教育の推進
  - ・マイボトル携帯の普及啓発の実施
  - ・資源循環のための事業者の意識醸成や連携を促進
  - ・バイオ由来製品の開発・ビジネス化を引き続き支援
  - ・民間企業等と連携した発生源対策や、流出したごみの回収・処理等を実施
  - ・全国豊かな海づくり大会を通じた水産資源の保護・管理と海・河川等の環境保全
- ◆国への要望事項
- ・大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に向け、万博で活用した最先端技術の実用化や、新たな技術開発の促進
  - ・先進的なプラごみリサイクル技術に対する財政支援
  - ・バイオプラスチック製品の技術開発等に対する支援の拡充や市場創出に向けた取組の推進

### ③ 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン

#### プラスチックごみ削減に向けた意識醸成・取組拡大

##### 成果(到達点)

- ・おおさかマイボトルパートナーズメンバーにより、マイボトルスポット5,536か所(令和8年1月末時点)及び万博会場内への59台の給水機の設置により、マイボトルの利用を促進
- ・オール大阪でゴミ削減や機運醸成の実施(ゴミゼロアクション:約21万人参加(令和7年11月末時点))
- ・大学や民間企業との連携によるプラスチックごみ流入実態等や取組状況の定量的な把握により、効果的な発生抑制対策等を推進
- ・マッチングセミナー等の開催や製品開発支援事業補助を通して、バイオプラスチック製品の開発・ビジネス化を支援し、万博で成果を披露

##### 取組内容

#### ▶「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けて万博会場内で取組を拡大

- ・おおさかマイボトルパートナーズメンバーが万博会場内に59台の給水機を設置し、府HPで設置状況を情報発信
- ・BLUE OCEAN DOMEパビリオン催事「海に育てられた企業 FURUNO海洋DX」にて、海洋プラスチックごみ対策に関して情報発信を実施(5月14日)
- ・マイボトルの利用やリユース食器の導入などにより、ごみの発生が予測の半分に



BLUE OCEAN DOME  
パビリオン催事



万博会場での給水機設置  
(おおさかマイボトルパートナーズ)

#### 取組内容

##### ▶OSAKAごみゼロプロジェクト

- ・街・川・海にごみのないきれいな大阪の実現をめざし、オール大阪で  
ごみ削減や機運醸成を図る
- ・官民連携で清掃活動(愛称:ごみゼロアクション)を実施し、約21万人が  
登録(令和7年11月末時点)

##### ▶マイボトルの利用促進

- ・おおさかマイボトルパートナーズなど、さまざまな主体と連携し、  
マイボトルの利用啓発やマイボトルスポットの普及、効果的な情報発信な  
どを実施
- 府内のマイボトルスポットは5,536か所(令和8年1月末時点)
- ・マイ容器・マイボトルの利用可能な店舗等を発信するウェブサイト  
「Osakaほかさんマップ」を運営

##### ▶バイオプラスチック製品のビジネス化を推進

- ・マッチングセミナーおよび展示商談会の開催や製品開発支援事業補助を  
通して、バイオプラスチック製品のビジネス化を支援(令和5～7年度)

##### 【成果】

- ・セミナー・展示商談会の開催、外部展示会への出席:  
計12回実施(令和5年4月-令和7年10月)
- ・製品開発支援事業補助件数延べ18件  
(令和5年4月-令和7年10月)
- ・支援の成果を万博会場内のリボンチャレンジ等で  
披露:10件



Osakaほかさんマップ



ごみゼロアクション! ~大阪春の陣~



□ハスフェスタ万博  
マイボトル・啓発パネルの展示



リボンチャレンジ「バイオプラスチックでREBORN」

## ④ 大阪湾MOBAリンク構想

大阪・関西万博を契機とし、民間企業等との連携により、ブルーカーボン生態系の湾奥部における再生・創出や、湾南部や西部における保全・再生に取り組んだ。今後も取組を進め、大阪湾沿岸をブルーカーボン生態系(藻場・干潟等)の回廊(コリドー)でつなぐ「大阪湾MOBAリンク構想」の実現をめざす。

### 2030(万博後のめざす姿)

#### □湾奥部における拠点藻場創出

「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けて再生・創出されたブルーカーボン生態系により府内のCO<sub>2</sub>削減に貢献



▲大阪湾MOBAリンク構想

### 2025(万博開催後)の成果・到達点

#### □官民連携モデルを確立し、大阪湾全域での藻場創出等拡大

- ▶大阪湾MOBAリンク構想の実現に向けて、大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)を立ち上げ、普及啓発活動を展開し、具体的な創出に向けた基盤を構築
- ▶万博の開催に合わせて万博会場周辺海域にブルーカーボン生態系を創出するため、補助事業を実施し、約1,000㎡の藻場創出を実施
- ▶映像コンテンツを作成し、ブルーカーボン生態系の取組を普及啓発
- ▶大阪湾奥部における藻場創出の適地調査結果及び簡易な藻場創出手法を公開
- ▶万博でイベントを実施し、ブルーカーボン生態系の取組について、府民等の理解・民間企業等の参入を促進

### 今後の課題と取組の方向性

#### □万博PR成果を活用した企業の参入促進と府民の関心向上により、大阪湾MOBAリンク構想の拠点藻場創出を加速化

- ・2026年海づくり大会等を活用したブルーカーボン普及啓発により府民・企業の海洋環境保全意識を向上
- ・万博会場周辺藻場の維持管理とモニタリング実施によりブルーカーボン生態系の持続的拡大を図り、Jブルークレジットを取得
- ・「大阪湾版Jブルークレジットの申請手引き」を作成・公開予定(令和8年4月頃)
- ・MOBA等を通じて大阪湾奥部での新たな拠点藻場を創出

#### ◆国への要望事項

- ・企業によるブルーカーボン生態系の創出等へのさらなる財政支援、及び港湾管理者等関係機関の協力・支援体制の構築
- ・港湾管理者等が、管理水域においてより主体的にブルーカーボン生態系の再生や創出に取り組むような制度的方向付け及び財政措置
- ・Jブルークレジットの認証に係るCO<sub>2</sub>吸収量の効率的なモニタリング技術の開発、及び都市港湾域も含めた広域モニタリングの実施

## ④ 大阪湾MOBAリンク構想

□官民連携モデルを確立し、大阪湾全域での藻場創出拡大

### 成果(到達点)

- 大阪湾MOBAリンク構想の実現に向けて、大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)を立ち上げ、普及啓発活動を展開し、具体的な創出に向けた基盤を構築
- 万博の開催に合わせて万博会場周辺海域にブルーカーボン生態系を創出するため、補助事業を実施し、約1,000㎡の藻場創出を実施
- 映像コンテンツを作成し、ブルーカーボン生態系の取組を普及啓発
- 大阪湾奥部における藻場創出の適地調査結果及び簡易な藻場創出手法を公開
- 万博でイベントを実施し、ブルーカーボン生態系の取組について、府民等の理解・民間企業等の参入を促進

### 取組内容

#### ▶大阪湾奥部におけるブルーカーボン生態系の創出

- 万博の会場対岸にある人工護岸(咲洲西護岸)において、民間事業者からの技術提案の公募により、令和6年12月～令和7年1月に海藻が着生しやすい基質等を護岸前面の消波ブロックに設置
- 令和7年3月～5月にモニタリングを実施し、約1,000㎡の藻場の創出を確認

#### ▶万博会場での情報発信による府民等への理解促進

- ヘルスケアパビリオン リボーンステージ(9月10日)
  - 大学生等のプレゼンにより、「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けた今後の取組指針となる「おおさかブルーカーボン宣言」を決定
  - 大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)の理念を広く発信するシンボルとしてロゴマークを発表
  - 大阪湾奥部での藻場創出技術の展示等を実施
- ブルーオーシャン・ドーム
  - 未来の大阪湾の環境を子どもたちと吉村大阪府知事が一緒に考えるイベントを開催(9月23日)
  - ブルーカーボン生態系の重要性や大阪湾での取組をトークセッション等を変えながら紹介するイベントを実施(9月26日)



大阪湾奥部での  
ブルーカーボン生態系創出



「おおさかブルーカーボン  
宣言」の決定



子どもたちと知事による  
イベント



ブルーカーボン生態系  
の取組紹介